

環境に配慮した取り組み

「より安心な美しい花を届けたい」「環境に配慮した栽培をしたい」という想いから、太陽熱消毒+微生物資材の利用なども行っています。一部の生産者は、光防除技術を導入し、環境負荷軽減に取り組んでいます。

環境にも配慮した美しい伊川谷の花を、ぜひお試しください。



様々な種類の花

栽培品目が多種多様な伊川谷地域の切花栽培。そのごく一部をご紹介します。



ヤグルマソウ



ナデシコ



スターチス



ケイトウ

切花の手入れの方法

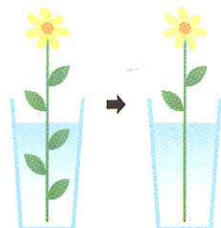
導管をつぶさないように良く切れるナイフやハサミで斜めに切ります。



■水揚げ

花を買ったらまず、水をためたバケツや桶の中で茎を斜めに切ります。斜めに切るのには水を吸う面を少しでも多くするため。

水につかる部分の下葉は取りのぞきましょう。



■下葉の処理

葉を水の中につけておくと、バクテリアの発生の原因になります。水の中につかる部分の葉は取りましょう。



■花を飾る場所

切り花の大敵は、乾燥と高温。涼しくて、なるべく温度の高い場所に飾るのが理想です。
×強い陽射しや風の当たる場所
×エアコンの風が当たる場所
には飾らないよう注意しましょう。

神戸が誇る Kobe Flowers' Story vol.4 美しい花

西区伊川谷町の切花



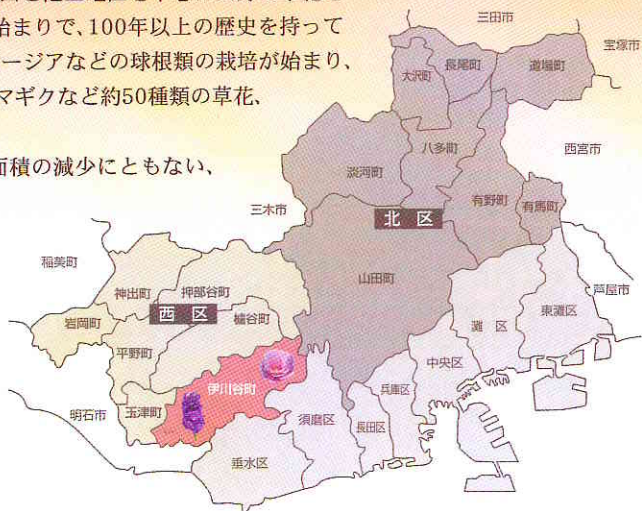
KOBE
UNESCO City of Design

神戸市
神戸市花き協会

地域と歴史

伊川谷の草花栽培は、明治初年に漆山と池上地区を中心に山野の草花を神仏の供花として栽培されたのが始まりで、100年以上の歴史を持っています。昭和15年頃、アイリス、フリージアなどの球根類の栽培が始まり、昭和27～39年頃までは、夏ギク、ハマギクなど約50種類の草花、枝物が生産されていました。

昭和40年以降、市街化による栽培面積の減少にともない、それまでの多種多様栽培から、秋～冬がストック、春～夏がトルコギキョウという2品目を中心とした栽培体系となりました。また、古くから栽培されているナデシコやケイトウ、センニチコウなどは独自の品種を栽培しており、現在でも品目の多様性を維持しています。



トルコギキョウ

「トルコギキョウ」…実は、原産地が「トルコ」でないばかりか、「キキョウ」の仲間でもありません。では、なぜ…？

日本に入ってきた頃のこの花は紫だけで、当時「紫」といえば「キキョウ」、そして特徴ある蕾がトルコ人のターバンに似ていることからこの名前が付けられたそうです♪実際は、「キキョウ」ではなく、「リンドウ」の仲間です。

ちなみに、品種改良が進み、現在では紫のみならず、ピンク・白・黄など豊富な花色がある他、形も一重咲き、バラのような八重咲きなど、様々なバリエーションに富んでいます！

近年、全国的に高い人気があり、花束やアレンジメント用として、人気が出ているお花です！！



ボヤージュ ホワイト



ボヤージュ アプリコット



ボヤージュ ブルー

品質の良い切花

伊川谷の土質は砂質で、水が切れやすい圃場なのが特徴であるため、しっかりとした水揚げのよい花を生産しており、市場からも非常に高い評価を得ています。



伊川草花ストック部会

生産者25名で、生産部会を組織しており、先進地視察、品評会の開催、土壌分析などを実施し技術研鑽に努めるなど、活発に活動しています。

関西を中心とした市場に、年間約220万本出荷しており、その種類もストック・トルコギキョウ・キンギョソウ・ケイトウ・センニチコウを中心に様々です。

また、従来からあるセンニチコウや、トルコギキョウの一部で生産者育種によるオリジナル品種による生産も行われています。



生産者の技術を競い合う品評会

ストック

春らしい甘い香りがあり、とても長く花が楽しめるストックです。

花言葉:「不変の美」「愛の絆」

ギリシャ時代にはすでに薬草として用いられていた、歴史のある花です。その昔、ある国の姫が敵国の王子との逢瀬のために城を抜け出そうとしたところ、ロープが切れて亡くなったため、哀れんだ神様が姫をこの花に変えたというお話があり、「愛の絆」という花言葉もそこからきているようです。

